

# 農空間

第62号

発行所  
福島県農林水産部  
農村計画課

## 【特集】農業用ダム・ため池の放射性物質対策について

農業用ダム・ため池には、原子力発電所事故による放射性物質が堆積しており、農業生産等に悪影響を及ぼさないための対策が必要です。そのため、平成26年3月から、水利用や施設管理に支障がある場合など、営農再開・農業復興の観点から放射性物質対策を福島再生加速化交付金により実施可能となりました。その対策の概要について紹介します。

【放射性物質モニタリング結果】  
平成25年度に県内のため池の水質と底質について放射性物質濃度を測定しました。

	検出下限値		計
	未満 (2Bq/L未満)	2Bq/L以上	
避難指示 区域外	95%	5%	100%
	1,516	84	1,600
避難指示 区域内	66%	34%	100%
	145	75	220
計	91%	9%	100%
	1,661	159	1,820

福島県内3,730箇所のうち、  
1,820箇所の水質調査結果

	8,000		計 (Bq/kg)
	以下	超	
避難指示 区域外	72%	28%	100%
	1,208	469	1,677
避難指示 区域内	59%	41%	100%
	154	108	262
計	70%	30%	100%
	1,362	577	1,939

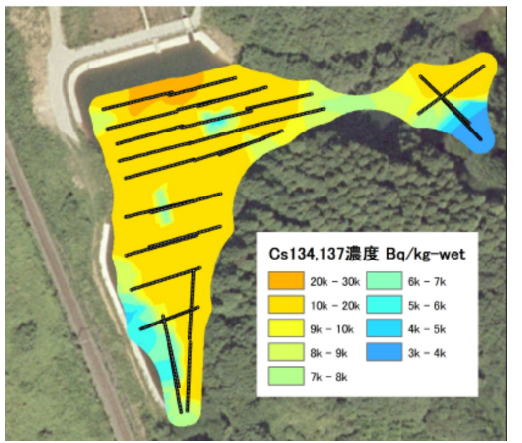
福島県内3,730箇所のうち、  
1,939箇所の底質調査結果

県では、今年度も継続してモニタリングを続けています。

【除染と加速化交付金】  
ため池の放射性物質対策においては、3つの条件(①ため池と住宅や公園が隣接している。②一定期間水が干上がる。③②によって空間線量が上昇する。)をすべて満たす場合、除染として行うことを検討します。除染に当てはまらない場合には、営農再開・農業復興の観点から対策の必要性を検討し、加速化交付金により対策を実施します。

【加速化交付金の具体的事例】  
本年の11月19日に国が公表した「技術マニュアル基礎編」によると対策を実施できる具体的事例は

- ①貯留水中から溶存態の放射性セシウムが検出された場合。
- ②底質の放射性セシウム濃度が高い(八千ベクレル超の場合など)ことから、維持管理作業に支障が生じる場合。
- ③高濃度の放射性セシウムを含む濁水を頻繁に取水する場合。
- ④避難指示等に伴い管理できなかったため池で空間線量率が被曝低減対策を要する場合。
- ⑤その他、ため池の利用・管理



面的モニタリング写真



底質の除去減容化(分級除去工程)

【加速化交付金事業の流れ】  
加速化交付金により対策を実施する場合、必要に応じ3段階の手続きを踏むこととなります。

- ①基礎調査
  - ・対策の必要性の判断
  - ・影響に応じた対策の概定
- ②計画
  - ・詳細調査・仮設計画の検討
  - ・効率的な対策の組合せの検討
  - ・対策工法の選定と地元合意
- ③対策の実施
  - ・対策の実施と効果検証
  - ※それぞれの段階(状況に応じて省略・一括)において、復興庁に申請することとなりますが、進め方については県にご相談願います。

【主な工法】

- ①取水口の位置の変更
- ②シルトフェンスの設置
- ③固化・被覆工法
- ④底質の除去・減容化

※④が中心となると思われますが、現場状況によって判断します。【農地管理課】

## 福耕支援隊情報

### 秋田県 池田剛志さん

秋田県より復興支援に来ました池田です。  
昨年度から相双農林事務所でお世話になっており、2年目となりました。

こちらでは、排水機場の復旧工事を担当しています。  
排水機場の復旧は社会的要請などもあり、ポンプ設備の復旧は早期に着手したおかげで、多くの機場においてポンプが稼働可能な状況になってきました。



地質調査の現地確認を行う池田さん。



設計通りにできているか厳しくチェック。

経験できないようなやりがいのある仕事を担当している緊張感、充実感、自分自身の大きな活力になっていきます。  
残り半年の派遣期間となりました。仕事以外においては、福島県内を隈無く走破して、ふくしまの見どころ、おいしい食べ物、すばらしい人情など、たくさんのお楽しみを秋田に持ち帰り、伝えていきたいと思っています。  
あっ！それから、お嫁さんも持ち帰れることができますよう、皆様、どうぞよろしくお願います。

【相双農林事務所】



樋管をクローラークレーンで設置中。

## 福島県関係各課の紹介 ～農村基盤整備課～ 課長 菊地和明

当課は総勢20名で災害復旧と農業農村整備のハード事業全般を担当しています。ここでは、今年度スタートさせた「頼れる県庁力」向上プロジェクトの取組を紹介いたします。

①は、厳しい現状を身軽に乗り切るため、業務の無駄を排除し効率性を高めるプロジェクトです。スリム化が大胆であるほど心と体が軽くなり、想像以上のエネルギーが得られます。

②は、大雨等の警報発令時や地震発生時の待機体制の進化であり、従来の体制をIT技術活用や対応の組織等により進化させ、職員負担が軽減されるにも関わらず県民の安全安心レベルを向上させるプロジェクトです。

③は、現在不安視されているため池等の設計施工技術継承に取組む「匠の技伝道プロジェクト」です。



頼れる農村基盤整備課のメンバー



ふくしま復旧便——県内からのお便り——

相 双

原町南部地区の復旧状況

南相馬市原町区の太田川より南に位置する原町南部地区は、避難指示解除準備区域となっておりますが、復旧・復興に向けて工事が進められています。



震災翌日の原町南部地区です。津波によりすべてが流され、震災前は見えなかった海が見えています。

右の写真は、震災翌日の原町南部地区の状況です。津波によって防潮林の松や、家屋の残骸、アスファルト塊などが大量にほ場に流れ込みました。震災前は、海岸沿いに防潮林や集落がありましたが、現在は写真中央奥に小さく写っている排水機場の建物しかありません。



震災翌日の原町南部地区の農地です。ガレキや海水が流れ込みました。(平成23年3月12日撮影)



ガレキなどの除去が完了し、現在畦畔の復旧作業を行っています。(平成26年10月26日撮影)

と相双農林事務所へ相談に訪れました。そうした要望を受け、平成25年度には復興交付金を活用して事業を継続することとなりました。

速く、あらゆる土質に対応できるため、相双管内の多くの津波被災地で活躍しています。瓦礫の他に、津波により運ばれた大量のヘドロや砂が残っていると、さらにもあり、撤去や、流出してしまつた表土の確保、作付けを開始した際に、問題無く生育するのするなど、課題は山積みです。瓦礫処理後、畦畔・整地・用排水路の復旧作業に着手しており、平成31年度完了を目指し、一歩ずつ進んでいるところです。

【相双農林事務所農村整備部】

農業振興課便り

農業振興課は、農業全般における技術革新・普及指導活動支援及び農林水産業に関する試験研究を所管し、試験研究成果等の技術を農業の現場で実践・普及させることにより、農業の振興に寄与することを業務としています。

当課には農業土木職員1名が在籍し、主に農業総合センター等試験研究機関の施設整備や管理運営業務を担当しています。また、平成25年度より、郡山市富田町にある農業総合センター畜産研究所養鶏分場を福島市荒

井の畜産研究所へ移転整備する「種鶏改良増殖施設」に着手し、今年10月に造成工事が完了、まもなく試験調査棟や鶏舎等の建築工事に着手する予定です。



造成工事が完了し、いよいよ建設工事へ。

地域に根ざした水土里ネット

地域と共に歩んで「鮫川堰」

鮫川堰土地改良区 事務局長 大井川和弘さん



鮫川からの取り入れ口です。



取り入れた水を向かい側の山へ送るため、市道の上を横断している6号水路橋です。

鮫川堰は、いわき市南部遠野町の鮫川より取水し、渡辺町までの全長約十三・五キロメートル、水田約五百十ヘクタールを潤す水路で、農業利用のほか商工業用など他業種と水路を共用していることが特徴です。

戦後は、常磐炭鉱が坑内の高温対策として鮫川堰を利用し、閉山後はスパリゾートハワイアンズに今も引き継がれております。

『農空間』とは... 農村において繰り広げられる農業の営み、それを支える農地や水、人々の生活、そして、美しい自然に囲まれ長い間に培われた伝統・文化などが溶けあつた空間のことです。

編集後記... もうすぐ冬です。読者の皆様は、今年秋を満喫されたでしょうか？私は県主催のウォーキングイベントに担当として、参加しました。裏方なので、ウォーキングはできませんでしたが、昼食に地元の新米や食材で作られた郷土料理をいただきました。いつもスーパーで食材を買っていましたが、スーパーに出回らず、地元で食されるものは、本当に美味でした。次回は、冬の旬を求めて... さて、どこへ行こうか？ (編集担当 M・N)



種鶏改良増殖施設の完成予想図です。

機会には少ないのですが、県オリジナル地鶏の「川俣シヤモ」や「会津地鶏」の種鶏供給を担う施設であり、本県養鶏業の発展と、生産地である中山間地域の振興に大きく寄与するものと期待されています。

【農業振興課 矢吹かおり】